

ブロッコリーの機械一斉収穫に適した育苗法

1 背景・目的

ブロッコリーでは需要が高まっている加工業務用出荷に向けて、機械による一斉収穫技術の確立が求められている。しかし、ブロッコリーは元来生育がばらつきやすいことから、一斉収穫には不向きである。そこで、機械一斉収穫に対応するため、花蕾径のバラツキを小さくする育苗法を検討した。

2 技術のポイント

- (1) 育苗法は、慣行育苗では、育苗期間を30日間とし本葉展開後に追肥(窒素:リン酸:カリ=2.4:1.6:2.0[g/128穴トレイ])を行うのに対し、今回検討した長期無追肥育苗では、育苗期間を42日間とし追肥を行わない。
- (2) 収穫時の花蕾径は、慣行育苗では8cm未満から18cm以上とバラツキが大きいのに対し、長期無追肥育苗では10cmから16cmの間とバラツキが小さいことから(図)、機械一斉収穫に適する。

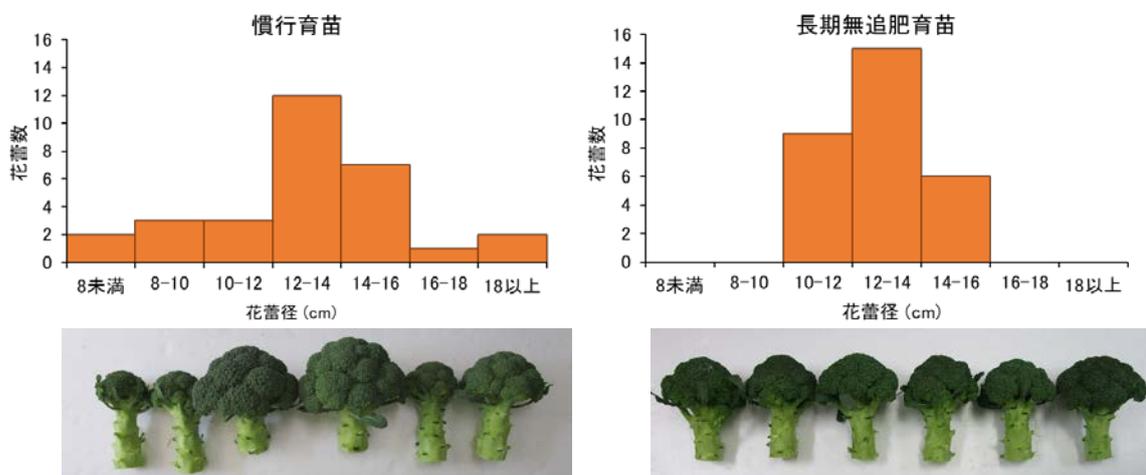


図 収穫時の花蕾径分布 (30株)

- ・試験は品種「グランドーム」を用い、水田転換畑で実施
- ・定植は、2021年8月31日に条間45cm株間40cmの2条千鳥植えで実施
- ・収穫は、各区で7割の株が花蕾径12cmを超えた日に一斉に実施

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 加工業務用出荷は重量販売であるため、収穫時期を遅らせ、青果用(12cm)より花蕾を大きくすることで収量の増加が見込まれる。
- (2) 本育苗法では、収穫が約10日遅れる。
- (3) 本試験は秋作で実施した。春作では育苗が低温時期であるため、育苗期間の検討が必要である。

問合先：園芸栽培グループ TEL 076-257-6911
担当者：松野由莉・村濱 稔